

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 理工学域理学系/教授

氏 名: 新留 康郎

授業科目名	理工系国際コミュニケーション特別研修
研修先 (大学・国・都市名)	遠隔研修: 西オーストラリア大学、同大学大学英語教育センター(CELT)による遠隔講義プログラム
研修期間	令和2年8月17日 ~ 令和2年9月18日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>鹿児島大学の全大学院生を対象として開講されている大学院全学横断的教育プログラム科目の一つである「理工系国際コミュニケーション海外研修」に対応した研修プログラムであり、科目履修ならびに条件を満たすことによって4単位を付与できる。</p> <p>研修では語学学校での研修と、課外活動を行う。課外活動とは具体的に①専攻分野に関連したプログラムへの参加(大学院生向け理系ワークショップなど)②海外大学の講義受講(聴講)③大学・研究機関でのラボ研修④異文化交流プログラムへの参加⑤企業等でのインターンを予定している。現地学生など多様な国籍・文化を持つ人々と接する機会を提供する。また、参加学生が英語コミュニケーション能力と専門的知識が十分に備わっており、かつ学生が希望する場合には、語学学校研修を免除し、高度な実践的ラボ研修を中心におこなうプログラムである。研修後は地域貢献の一環として報告会を公開で開催するなどして、海外で得た知識と経験を還元する機会を設ける。</p> <p>研修先は研修内容の提供と渡航・生活サポート体制を既に確立している協定校、または理系文系を問わず、本学教員が研究活動等を通じて確立した関係を利用して、学生の専門および能力に応じた多様な研修先を確保する。プログラム実施実務は鹿児島大学理工学研究科グローバル人材育成支援室(GDO)が担当する。GDOは平成26年に設けられ、これまで延べ57名、今回11名を含めると68名の学生に対して研修を行った実績を持っており、全学から募集する海外派遣学生の能力に適したプログラムを実施した。</p>	
<p>〔研修の成果〕 * 事前学習も含む。地域のグローバル化や活性化に資する人材育成についての成果も記載してください。</p> <p>パースでの研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響でので派遣を中止した。代替措置として西オーストラリア大学語学CELTから提供された5週間のオンライン研修プログラムに加えて、支援室で実施した1週間の研修プログラム(English Camp)を組み合わせた「特別研修」を実施し、「海外研修」読み替える手配を行った。</p> <p>CELTのオンライン研修では、英語コミュニケーションの研修のほか、現地大学生や第3国からの研修参加者とのオンライン交流企画が実施され、グローバルな視野を持つということ、さらに英語でのディスカッションを通して異なる文化圏の人々と共通の課題を見つけだすことを学んだ。この研修を通じて単純な英語力だけではなく、自らの専門知識や社会的な知識・経験がどの程度グローバルに通用するのか、また自らに足り無い資質は何かを体験的に学ばせた。</p> <p>支援室で実施した1週間の研修プログラム(English Camp)では、地域貢献活動を主眼として、参加学生の関心に基づいたテーマを自主的に選択し、鹿児島と現地パース市との比較を行った。参加学生は「水」に関わる日本と西オーストラリア地区の環境の違いに着目し、インターネットや現地調査(鹿児島サイド)を通して情報を収集し、英文のWebサイトを構築し、公開した。全てのプロセスは英語を母国語とする教員の指導のもと英語で行われ、日本人同士といえども英語によるコミュニケーションと情報発信に関わるスキルを向上させることができた。</p> <p>これらの研修により、参加学生が地域のグローバル化や活性化について自分の意見を持つことにつながったと、研修期間に作成されたレポートや研修終了後アンケートから評価している。5週間の遠隔研修と1週間の学内での研修ではあったが、グローバル化や地域の活性化に関わる有意義な学びの場を提供することに成功し、有意義な人材育成の場を作ることに成功した。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>本研修は、2019年度より大学院全学横断的教育プログラム科目に指定されており全研究科からの派遣参加が可能なものである。今年度は農林水産研究科から2名の参加があったが、次年度以降はさらに他研究科からの参加を増加させたい。</p> <p>西オーストラリア大学との遠隔研修プログラムについては、来年度も開催することを念頭において、更なる内容の充実を鹿児島大学と先方大学間で検討する。</p>	